

報道関係者各位

大阪府 茨木市

新型コロナウイルス感染症禍に配慮した新たな芸術祭  
「茨木映像芸術祭」の入賞作品決定

茨木映像芸術祭実行員会（茨木市、茨木美術協会、茨木市文化振興財団）が開催した映像作品のコンクール茨木映像芸術祭（Ibaraki Film Art Festival）の入賞作品がこのほど決定しました。

茨木市では新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年開催している美術展、現代美術展、写真展の開催を令和2年度は見送り、感染拡大防止に配慮しながら実施できる映像作品のコンクールを新たに企画しました。

映像作品は実体のない「光」の作品であることから、太陽から地球に光が届くまでの時間である8分19秒以内の映像作品を募集。令和2年7月7日から12月18日までの募集期間に全国から78作品が集まりました。

木村光佑氏（造形作家、茨木美術協会会長）、加須屋明子氏（京都市立芸術大学教授）、おかけんた氏（吉本芸人、アートプランナー）、林勇氣氏（映像作家・美術家）の4名による審査会で、谷 耀介（たにようすけ）さんの作品「A Certain Town in the Days」がグランプリに選ばれました。

グランプリ作品は、新型コロナウイルスの集団感染が起きたダイヤモンド・プリンセス号の影響を受けた、横浜市の石川町を描いたドキュメンタリーアニメーション作品です。

グランプリ作品を含む入賞作品及び入選作品の計15作品は、茨木映像芸術祭特設サイトでご覧いただけます。<https://www.819art.com/>

グランプリを受賞した谷 耀介さんのコメント

「かつて支配できない言外の感覚を、妖怪として想像した世界がありました。大量の言葉を手にし、支配できたはずの世界は、しかし予期せぬコトにこうも脆く分断され崩れそうになります。妖怪たちは消え去りましたが、予期せぬ恐怖や不安を支配しようせず、かつて彼らを発見し、愛でることができた感覚を思い出すことが、しなやかな日々を作るのだと思います。」

福岡洋一市長のコメント

「コロナ禍に負けない『アーティストの皆さんの発表の場を』との思いで創設しました。こちらの予想をはるかに上回る素晴らしい作品の数々が届きました。」

（入賞作品）※敬称略

グランプリ（賞金30万円）	「A Certain Town in the Days」 谷 耀介
準グランプリ（賞金20万円）	「cobalt」 水野 勝規
特別賞（賞金5万円）	「ねじけたつま咲き」 gomaora
特別賞（賞金5万円）	「MAKE」 Nanako Kato
特別賞（賞金5万円）	「音景」 三木 祐子+金崎 亮太
特別賞（賞金5万円）	「空蟬」 鳥居 史郎
市民審査賞（賞金7万円）	「空蟬」 鳥居 史郎
グッド賞（賞金3万円）	「空蟬」 鳥居 史郎

【問合せ先】

文化振興課長 辻田 新一  
電話：072-620-1810